

重要文化財大安寺本堂ほか7棟 保存修理事業の経過報告

本堂と山門が昔の姿に生まれ変わります

現在工事中の本堂と山門は、文化庁の指導のもとそれぞれ史実に基づいた昔の姿に復原されることになりました。

完成後は、どちらも工事前の姿とは大きく異なります。それぞれ比較してご紹介します。



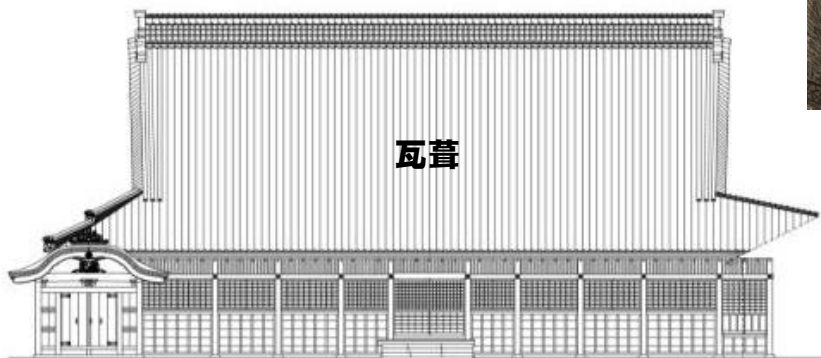
本堂は瓦葺から茅葺型銅板葺とこけら葺になります

本堂は、工事前は瓦葺の屋根でしたが、これは明治44年の大改修によるものです。それまでは、建築当初以来上部が茅葺、その周囲がこけら葺(板葺)だったことが分かりました。



「当山図」(大安寺所蔵)より本堂部分
*江戸時代の作品

工事前の本堂(正面)



今回の保存修理工事では、本堂をその当時の屋根の形に復原することになりました。このうち上部の茅葺については、積雪等の対策を考慮し茅葺の型を模した銅板葺となります。

今回決定した方針をもとに、本堂の屋根はさらに解体が進められています。

完成後の本堂(正面)



山門は石敷の参道になります

もともと、山門より寺へと続く自動車用の道路はありませんでした。時代が進み、自動車が普及していくにつれ、順次車道が整備されていったことが分かっています。

山門の下を自動車が通っていたこともありますが、それまでは石段があり、石敷の参道となっていました。



完成後の山門外構(イメージ図)



大正時代の山門

今回の保存修理工事では、山門も車道整備前に近い姿に生まれ変わります。外構部分は山門下アスファルト舗装の斜路を廃止して石段を設け、石敷の参道に整えます。

また屋根は、越前赤瓦で葺き直されます。

鐘樓の解体が完了しました

建物部分の解体が終わり、笏谷石の石垣部分だけになっていた鐘樓は、発掘調査を経て石垣部分の解体も完了しました。発掘調査では、五段分の築石が埋没していたことが分かりました。

石垣部分は石の一つずつに番号を割り振り、テープで貼り付けました。状態を記録しながら慎重に取り除き、割れていたり欠けがあったりするものは、補修した上で再び使用します。



今後の工事予定

本堂は解体作業が完了し、今後は耐震などの調査をしながら下から組み立てていく予定です。山門は木部の組み立てがほぼ完了し、今後は越前瓦を葺く作業と、石敷の参道などの外構に取りかかります。山門は今年度中に完成する予定です。

鐘樓は取り外した石のひびや欠けを補修し、再び積み上げていきます。その後、木部の組み立て作業に取りかかる予定です。

これまでの工事の様子は動画でも公開しています。ぜひご覧下さい。

令和元年度
まとめ



令和2年度
まとめ



設計監理：公益財団法人文化財建造物保存技術協会（東京都荒川区）

工事請負：松浦建設株式会社（石川県能美市）

